

平成 30 年度第 7 回日野市公民館運営審議会会議録

開催日時 平成 31 年 3 月 2 日（土） 午前 10 時から
場 所 中央公民館

配布資料

- ◆前回議事録
- ◆次第
- ◆公民館における利用者交流のあり方について
- ◆公民館基本構想・基本計画の策定について
- ◆学びと育ちの基本構想～第三次学校教育基本計画（案）
- ◆人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について
- ◆公民館行事予定
- ◆公民館だより

協議事項

「公民館における利用者交流のあり方について」（諮問）

- ・ この答申については会議以外にも委員さんの意見等を交換して、作成につとめてまいりました。大変に期間が短い中、委員のみなさんの協力を得まして、本日答申できることに感謝申し上げます。今年度最後となるこの会議の場でできれば館長にお渡ししたいと思っています。お手元の答申案をご確認いただきますようお願いいたします。
- ・ 自分は学校教育の現場が長かったので、戦後 74 年を迎える公教育の歴史の課題を考えてしまいます。学校教育が肥大化してしまっ、社会教育がそれを支えるようなちよつと誤解をされがちなところなどもありますが、そうした点からもこれは示唆に富んだものだと思うし、畔上委員の意見にも学ばされました。各委員からの意見を受けて、またそれを修正して・・・という作業は大変だったと思います。

自分で整理するために、どんな章立てになっ、どんなキーワードがあっ、とサブタイトルなどを入れつつ、書き出してみました。

「基本的な考え方」の「1 現代における市民の生活と公民館」では社会教育の歴史をきちんと学んで、社会教育法の原点に立ち返って第 20 条でうたわれている「実際生活」を考えることの大切さを確認しました。

また、市民ひとり一人にとっての「所有としての豊かさと学び」と「存在としての豊かさと学び」の問題は社会教育だけでなく、学校教育、家庭教育においても教育実践の指標としての観点を示していただいたと思っ

ていますし、さらに「公民館の利用者とは誰か」のところでは、現在の人と未来の人、公民館歴の短い人と長い人、そこには「可能性」も「多様性」もあって、「限界性」もあるのでは？と考えてみました。

「2 現代における人々の交流を考える」のところでは「ゆるやかなつながりの人間関係へ」に対して「自立的でしなやかで」といったサブタイトルを考えました。「開かれたつながりの人間関係へ」のところは「あらゆる人に開かれ創造的な三間（時間、空間、人間）で紡がれて、織りなされる」としました。そこにどう支援し、寄り添うかということが大切と考えました。

また「Ⅱ 現状分析と課題把握」のところで、利用者の現状について、も「十分な余暇事業の活用」「時間がなくても行きたくなる」にはどうするかを考えました。これも大事な視点が示されていると思っていますし、サークル内、サークル間、個人としても参加が可能な利用者交流について、他の公民館から学ぶということはとても刺激的であると感じています。

そして、利用者交流の課題については「『る〜ぷ』的取り組みの維持と発展と同時に、持続可能な利用者交流や地域との関係の相互協働的な限界と可能性を探る」ということも自分なりに理解しました。

これからの交流に関して、例えば実践女子大とか明星大、帝京大などと公民館の連携は公民館側からチャンスをいただけないと動きづらいところもあるので、そうしたことをあげてあるのも嬉しく思いました。

また、談話室での居場所事業としての「ゆる・カフェ・時間」の開設、「ご近所会議」の開催などは、本当に大事な取り組みだと思いました。

利用者が公民館について学ぶ講座や機会があることは、「知れば納得」して「行動する」ことにつながるわけですし、そうした場があることをここできちっと入れてもらえたことはすごく嬉しかったです。

それから「東京都内の他の公民館における利用者交流の取り組み」を取り入れたことも知恵袋を共有する意味でよかったと思います。

最後に具体的な方針を三つの具体性のある、取り組み目標という観点でよくまとめていただいて、私としてはこれで十分だと思っています。

これからはこの方針に対して、具体的に「例えば・・・しよう」というのをみんなで持ち寄って、話し合って、どうつくっていくかが大切になると思っています。

- 方針の中で「ゆるやかにつながる機会と場所の拡充」とありましたが、大切なことだと思います。先日、私も「ゆる・カフェ・時間」のお琴の演奏を聞きに行ったのですが、誰でも受け入れてくれる場所と空間で素晴らしい時間を共有できました。公民館の他の講座のような事前の申し

込みがいらず、「ぽっ」と行けるよさもあると感じました。

- 全体にまとまってきたし、読みやすくなったと思います。未利用者を視野に入れている点も、これからの取り組みにおいて大切だと思いました。

- 大切な要素がちゃんと入っていると思いました。未利用者にどのように知らせていくかは大切だと思います。サラリーマンだと家と会社の往復生活をしていたら、なかなか公民館を利用する機会もないかと思われまます。これから「働き方改革」といったことなどで余暇ができてきて、どう過ごしたらいいかわからないという人たちも出てくるのではないのでしょうか。そういうところに公民館が場をちゃんと提供するというのは大切なことだと思います。

次世代をゆるやかにつくっていく、何かの施策のためというのではなく健全で穏やかな市民を育てていく上で公民館の持つ役割は大きいと思います。今まで利用してこなかった市民にどうアピールするか、というのは重要でありかつ難しいことかもしれませんが、その上でもこの方針はよいのではないかと思います。

- 内容的にはすごく読みやすくなったと思います。自分の意見も入れていただけたし。ですが、確認したいのは諮問に対する答申というのは、今後どういう使われ方をするものなののでしょうか。

館長が諮問した内容に答申をしますね。それをそのまま市民に対して知らせることになるのでしょうか。噛み砕いたものを市民に提示するのでしょうか。

- 答申をいただきますと「公民館のこれからの運営に生かしてゆく」のですが、ホームページなどを通じて市民にも読んでいただける機会も設けまますし、教育委員会にも報告として提出いたします。

- 要約版を作ろうかという意見もあります。

- 公民館における利用者交流についての答申であるなら、公民館のことをある程度知っている人たちにあてて作成していることになります。であれば、社会教育法第 20 条のこととかをあえて書く必要があるのかという疑問はあります。もっと具体的に上がっている問題に対して、「こうすればよくなる」と示すのに限定してまとめたほうがよいのではないかと、前から思っていたのですが。そのへんはどう考えたら。

- 私としては館長から諮問をいただいているので、これを館長に示すという点では、個人の理解と共通しています。それをどう市民にオープンにしていくかという点では、方法はいろいろあると思います。

これをそのままホームページに載せるというやり方もあるのですが、

そこはむしろ公民館で工夫していただくところではないかと考えます。

こんな答申が出たのを受けてその先で、努力していただくところではないかと思っています。

- この答申を読んで「こんなことは知っている。それよりもどうすれば交流が深まるか、そっちの具体的なことが欲しい。」となったりしないのか。
- それも含めて、まずこの答申をいただくことから来年度事業の企画やさまざまな発信の指針とさせていただくものです。そしてそれを評価するという一連の流れの中で、活用させていただくことになります。
まず基本となるものをいただき、それをどう市民に対して「見える化」していくかが、これからの私たちの課題になってくるかと。
- 自分としてはよい内容だと思っていますが、館長ならば知っているような内容かと思ったもので。こういう話は最初にするべきだったとは思いますが。
- 例えば教育について言うと、今の教師たちが本当にわかっているのか、社会の変化の中で基本を失っていないか、人間を育てるということの原点を、施策的なことに目を奪われて右往左往していないか、というようなことはいっぱいあります。職員集団というか専門家が集まるとそうした方向に落ち込んでしまって、相対的に大切なことがわからなくなるということもあります。
例えば「基本的な考え方」にある三つをここまで整理することだけでも、先端と過去に学びつつ、まとめたものだと思います。それでは公民館の職員がそれらを熟知しているのかといえば、基礎的なことは現場で経験的に理解されているかもしれませんが、理論的に十分把握されているでしょうか。
実は今回私も具体的な方針のところ「例えば・・・」という提案もしましたが、あとで思ったのは「例えば・・・」というのは、これからつくっていく、今回はそのための答申ではないかということです。
ご意見ももっともだと思いますが、「基本的な考え方」のところは公民館の館長さんや職員の方々にもきちんとした提言力があると思っています。ですが、ストレートな問いかけはすごく勉強になります。
- 前回よりも文章は読みやすくなったと思います。私もこれをどうするかという疑問を持っていましたが、同じ意見の方が他にもいたことがこの場に来て分かりました。
- はじめの形と比べてだいぶわかりやすくなったと思います。おそらく

苦勞もいろいろあったと思いますが。一点思ったのは、「つながり」と「交流」の違いは何なのかということ。この答申の中で、初めのうちずっと「交流」という言い方でできていたものが、後半で「つながり」となってくる。どうしてこうなったのか、やや違和感はありますが、ほぼ同じようなものとして使っているというのが実際かもしれません。答申ではそこをうまく説明する言葉を入れたいと思っていたのですが、言葉が浮かびませんでした。

- ・ 「現代における人々の交流を考える」(3P) というのがあって(1)では「ゆるやかなつながり・・・」(2)では「開かれたつながり・・・」となっています。委員のご指摘のとおりですが、例えば自分などは、「交流」という概念があって、具体的行為を伴うものを「つながり」としているのかな、などと勝手に読んだりもします。が、答申というものは読み手に依存していい部分もあるのかもしれませんが、勝手に読まれないように説明が必要とされる部分もあると思いました。
- ・ 前は大学の論文のようでしたが、今回はもっと一般的な形になったと思います。読みやすくなりましたが、かなり苦勞されたのではないかと思います。私も途中までは「交流」と「つながり」を並列的に書かれていてそれが「つながり」にまとまってくるあたり、気になっていました。ですが、方向性としては「交流」から「つながり」へもっていきたいという思いが、前回と比べて自分の中では感じ取れるものになってきました。

あと細かな点ですが、似たような文章を読む機会があって、「学び」というのに対して、「豊かな学び」という言葉が使われていて、とてもよいなと思いました。が、「持つための学び」から「なるための学び」のくだりのところに「新たな学び」などもあるともっといいかなという感想をもちました。

そして「公民館の利用者とは誰か」を掲げたことは構成上、分かりやすかったと思います。先ほど「三間(時間、空間、人間)」とおっしゃったように、「居心地のよい時間と空間」というのはわかりやすいのですが、そこに「家族」単位で参加できるような場があると、世代間の交流も進めやすいように思います。「大学連携」や「子ども」といったキーワードとあわせていただけのではないかと思います。

「これからの交流に向けた取り組み」のところでは「大学連携」「談話室」「公民館について考える」という整理がされているのはよいと思います。それとこうした取り組みは日野市内に留まらなくてもいいのではないかと思います。近隣の公民館と講師を交流するとか、コラボして講座を

組むとかがあってもいいかなと思いました。

- 今回 9 月に諮問をいただいて、3 月までに答申ということで実質半年、会議も一回増やしていただきましたが、4 回と非常に短い中でできるのかという思いはありましたが、最終段階で、各委員から本当にいろんな意見をいただきました。そのすべて反映することはできませんでしたが、答申することも大切ではありますが、答申を踏まえて公民館が変わっていくことが大きな目的だと思います。ここで残された宿題については、今後も取り組んでいくことが大切だと考えています。

もう一つは、諮問をいただいたことで、委員の間での議論がいろいろできたこと、例えば「答申とは何なのか」「公民館運営審議会の役割とは」などについてあらためて考え直すきっかけになったのではないかと考えています。それが高まってきて各委員からの意見を事務局でも一覽にさせていただきましたが、こうした数々の意見が上がったことも大きな財産と言えるでしょう。

今回は表に出るのは答申としてまとまった 12P のものになりますが、その過程であがってきた宿題も今後引き継ぎながら、公民館のあり方を考えていきたいと思っています。どうもみなさんありがとうございました。

- 本日、館長にお渡しするというところでいいでしょうか。
- 「交流」と「つながり」のところをどうするかですね。
- 今回はこれでいいと思います。これからの宿題として考えたらどうかという提起をしたかったですから。
- 私の感覚ですが、「つながり」というのは個別なつながりをさして、「交流」というのはそれを俯瞰して言っている感じなのではないかと。
- 自分の考えでは「交流」というのは文字通り交わっている状態のことで、「つながり」は手をつなぐようなもっと強い結びつきのような感じではないかと思いました。

その後、答申の手渡しと記念撮影を行う。

- 委員のみなさま、ありがとうございました。委員のみなさまには今年の諮問から 6 ヶ月間という短い期間での答申作成について、この間のご尽力心より感謝申し上げます。

日野市中央公民館において公民館の運営等の諮問を審議会にいたしましたのは、長い歴史がある中で平成 21 年度に 1 回、そして今回が 2 回目となります。審議会の活発な議論を経てよりよい公民館運営に向けてのご意見をいただきました。さらに市民の公民館活動をより活発

に、そして市民とともにつくる公民館をこれからも支えていただければと思います。

諮問いたしました「公民館における利用者交流のあり方について」は、長い公民館の歴史の中で本来もっと早くから公民館として検討、考えなければならなかったテーマだと思っております。公民館開設 20 周年記念をきっかけに誕生した「中央公民館利用者交流会る〜ぷ」が今まで公民館の公民館まつりや年末の大掃除、三者懇談会など数々の事業の中心となって行ってきたという経緯があります。そして 2010 年（平成 22 年）には市民委員の参加のもと、「日野市公民館基本構想・基本計画」を策定いたしまして公民館の目指す方向を明確にしました。これらにおいても公民館が学びあい、交流しあう場であることは改めて示されています。しかし、利用者の高齢化、サークルの減少、最近では若い世代の利用がなかなか広がらないといった課題も指摘され、さまざまな世代が参加できる仕組みづくりや新たな施策を求める声も多くあります。「地域」「つながり」これを学びとどうつなげ、とらえ、公民館の役割は何かを求められている中、時代にあった利用者交流のかたちを、先ほどいただきました答申を踏まえ、公民館職員と実現すべく未来に向けた公民館運営に取り組んで参りたいと考えております。

来年度は「第二次公民館基本構想・基本計画」の策定を行います。その中で、本日いただきました答申の内容、議論されたご意見につきましてはこの計画の中で十分反映できるようなつくりかたをこれから策定委員とともに検討してまいりたいと思っております。

もっと公民館を開かれた場所に、そして学びから生まれる交流の場として、公民館の価値をさらに高めていきたいと思っております。公民館の価値はやはり「学び」であり、そして「人」にあると思っております。先ほどもありましたが、これからはまた公民館の再スタートだというふうに思います。本日はどうもありがとうございました。

• そもそも今回の諮問の発端になったのは、年が明けたので、足掛け三年になるのですが、三年ほど前に館長に「これからどういうふうに公民館の交流を考えていくか」について相談したことがありました。

私は一利用者として「公民館利用者交流会る〜ぷ」の代表をしていますが、答申の中でもその現状について書いていただいています(7P)

そして私たちは 30 年、公民館とともに活動してきましたのですが、なかなか若い人を取り込むことができませんでした。後輩を育てることができませんでした。自分たちも高齢化して、サークル会員も脱退などで減少していきました。自分たちも公民館と一緒に頑張っ

てきたという自負もあります。ですが、30年間公民館とともに培ってきたものがこのままではなくなってしまう。または、単なる貸館のようになってしまいかねないという不安を感じていました。

そんなこともあって、公民館運営審議会の中でもこの問題を議題に取り上げて、「日野らしさ」を大切にしたい公民館の存在を、もっと市民にも知っていただき、公民館も外に出ていくそんなふうにはできないかと考えていました。それがそもそものこの諮問のきっかけになったと思っています。

おかげさまで、今日の答申に結果に結びつくことができましたので、これからまた公民館運営審議会も、私も一市民であり「る〜ぷ」の一員として、公民館とともに頑張っていきたいと思います。

今日に向けてみなさまには本当にご苦労いただきました。

ありがとうございました。

その後、丹間ゼミ成果報告会

館長の紹介を受け、帝京大学の学生三名による成果プレゼン（以下略）

- 本当に素晴らしい冊子を作ってくださいました。書かれた内容から、一人ひとりが公民館によって生き生きとした人生を歩んでいることがわかります。
- 冊子の裏を見ると、生涯学習コースを選ばれている3・4年生が11人、中等教育コースを選ばれている学生が1人、子ども教育コースが1人、初等教育コースが4人。丹間先生のご専攻が社会教育だと思うんですが、実際にゼミのみなさんは交流していて、専攻コースによる着眼やこだわりの違いとかはあるのですか。
- やっぱり初等教育コースの学生だと学校教育と公民館を比較したりとかいうのは意識していたりというものはあるかと思います。同じように、自治体に就職予定の学生は、行政としての社会教育のあり方だったりというのはいくらも考へたりするのではないかと思います。
- （実践女子）大学でもやっと、初等教育とか中等教育とかの卒業生の交流を組織し始めているのですがぜひ、社会に出た卒業生と在学生の交流の場を持ってもらえたらいいと思います。
- 自分が公民館と関わってきた中で、大学生が主役になれるチャンスがあるということをご一・二年で認識しました。大学生が中心になって、子どもや高齢者につきあうかたちは、とてもよいと思います。
- 素晴らしいと思いました。こんな文章が書けるとは大学生ってすごいな

と。公民館がこれまでつながりをもってきた若い世代となると高校生が中心だったように思うが、自分たちが考えてもいなかったことを知らせてくれて、それに答えまで出してくれている。そしてそれを、はっきり発信してくれている。それが今後もつながっていくといいと思います。

- この冊子を見た時「これなら読んでみたい」と思いました。表紙から素敵ですし。「地域のリビング」という言葉も大好きですので。まず手にとってみたいと思いました。
- 素晴らしい内容だと思いますが、パワポの使い方に残念な部分があると思いました。将来のために。
- とても有意義な活動だと思います。ともすると大学が一番疎遠になりがちなところがあります。かつては宗教共同体として人々はつながっていたと思います。人間は社会的な動物なので、どこかでつながりを持たないといけないというのはわかっていて、法事とか何とかでつながりを持っていたのが、今日は地縁、血縁ともに関係性が薄くなってきている面があります。個人として自立ではなく孤立するという状況があります。そういう中で宗教的に人と人をつなぐのはなかなか厳しくなっていて、なにか代替機能を持たせるものが必要ということで、模索しているのだと思います。公民館はそうした地縁関係を結ぶ役割も持っていると思うし、学生さんが公民館について調査すること自体もそれは大事な意味を持っていると思います。今日、サークルに参加しない学生が増えていることもなかなか深刻な問題としてあると思いますが、地域に出て高齢者や壮年などいろんな人に話を聞くことで自分の立ち位置を確かめるというようなこともあるし、それを本にするという作業も、共同体としてのつながりを深めることにもなると思います。
- 自分が大学生の時はよく「モラトリアム」という言葉で語られました。社会人になる一歩手前で、かといって成熟しているわけでもなく、思うままに時間を使っていて、責任感があるのかと言われました。が、逆にそういう立場で実現可能かどうかわからないギリギリのところできこうした提言を出せるというのはとても貴重なものであったりします。それをこうした冊子にさせていただけるとはとてもありがたいものです。私たちにとってもすごくいい勉強をさせていただけたと思っています。もう一つは私自身、週に一回子どもたちの前で話しているのですが、自分の思いや感じ方をいろんな先生や子どもたちからもいっぱい収集しながら、それを言葉としてどう伝えるかという問題があるわけですが、この本のように字数が決まっていると自分だけ長くするわけには

いかないといった苦勞もあつたと思います。でもそれはこれから社会の中ですごく役に立つだろうと思います。

- ・ 素晴らしいものを見せていただきました。小・中学生って大学生が大好きで、自分たちだけだと「大人しかいないのか。」と思われるけれど、大学生がいると雰囲気が違います。そして大学生はまた、学校で学べないことを得られたりもするのでお互いにいいのではないかと思っています。
- ・ おほめの言葉とかはありがたいが、学生のためにはもっとダメ出しをいただいてもいいかと思いました。私としては公民館に学生が育ててもらっているという感じがします。冊子の表紙や「地域のリビング」という言葉などもほめていただけていますが、これも公民館ですずっと生き生きとした人生を送ってきた方にインタビューしたからこれだけのものができたのだ、公民館と学生が出逢えたからできたものだとも思います。公民館からも学生にぶつかって欲しいですし、学生は学内で学んでいることが将来どんな役に立つのか見えないまま授業を受けている中、自分が社会の役に立つことを実感できる場を持たせていただいていることに感謝しています。これからも大学と公民館がお互いに刺激し合っていけるつながりを持つていくことができればいいなと考えていますし、また、私自身も公民館に育ててもらっているのかなとも思ったりしています。人間は多様性の中で育っていくということもありますので、こういう連携をこれからも続けていきたいですし、厳しいことを言うていただくことも教育上ありがたいと思っています。
- ・ どうもありがとうございました。前回の発表の時、インタビューする相手をどうやってみつけたのかを伺ったのですが、「公民館と心を惹く出会いをしていそうな方をゼミ生が選びました」との言葉をいただきました。話をしてみて心と心がつながるところまで導いた力というのは素晴らしいと思いました。それと職員も公民館という場所に配属になったことで育てられていると感じています。今回の答申も、職員が実現できるようにしていきたいと考えています。

その他報告

- ・ 東京都公民館研究大会の課題別集会では、委員部会の担当する課題別集会の参加者数が一番多かったことを報告しておきます。
- ・ 聞いたあとで地域に帰ってどう活かすかが課題だろうと思う。
- ・ 公民館のサークルと地域との関わりを発表したのだが、この点は他市と比べて日野市の弱いところだと思うが。公民館未利用者をひきこむため

の手段としても、地域に入り込むということ、市民の日常生活に入り込むことが重要だと思う。その点に着目してやったら80人以上が集まってくれた。それと「地域」にこだわるのは大切だが、あくまでもそれは公民館のこれまでの業務に付加する「要素」と考えるべきだと考えている。本来の業務はおろそかにしてはいけないだろう。

- 研究大会の正式な記録は3月中に大会事務局でまとめ、ホームページにあげられる予定です。その報告はまたの機会によろしいでしょうか。それから職員部会は来年度、日野市が会長市になります。4月の総会で正式に決まり、月1回、日野市で職員部会を開催し、部会として研究集会を担当することとなります。
また、定期総会については代議員数などもありますが、詳細は追ってお知らせします。委員部会の出席についても次回以降の会議で。
- 次に3月16日の講座の件は。
- 「話し合おう！考えよう！これからの公民館を」というタイトルで、講座を行うのは三回目です。今回はこの答申の報告、丹間ゼミの学生からのプレゼン、冊子にも登場するインタビューされた市民数名からの報告があり、ワークショップでは「描こう！公民館をもっと楽しむつながり方を」というテーマで具体的な話ができたかと考えています。
委員のみなさんの参加をよろしくお願ひします。
- 次回の日程については6月1日（土）午前10時、中央公民館でいかがでしょうか。その前に公民館まつりの開催がありますので、開会式のご案内を含めて委員のみなさんには後日お送りします。
- 本日はありがとうございました。